

# 第1 火災の概要

## 1 出火件数

令和3年中における出火件数は、110件であり、前年と比較すると25件の増加である。

この出火件数を火災種別ごとにみると、建物火災は54件で全体の49.1%を占め、前年と比較すると12件(28.6%)の増加である。

林野火災は、5件で全体の4.5%を占め、前年と比較すると2件(66.7%)の増加である。

車両火災は、9件で全体の8.2%を占め、前年と比較すると同数である。

その他の火災は、42件で全体の38.2%を占め、前年と比較すると11件(35.5%)の増加である。

構成市町別では、佐倉市が59件で、全体の53.6%を占め、前年と比較すると3件(5.4%)の増加である。

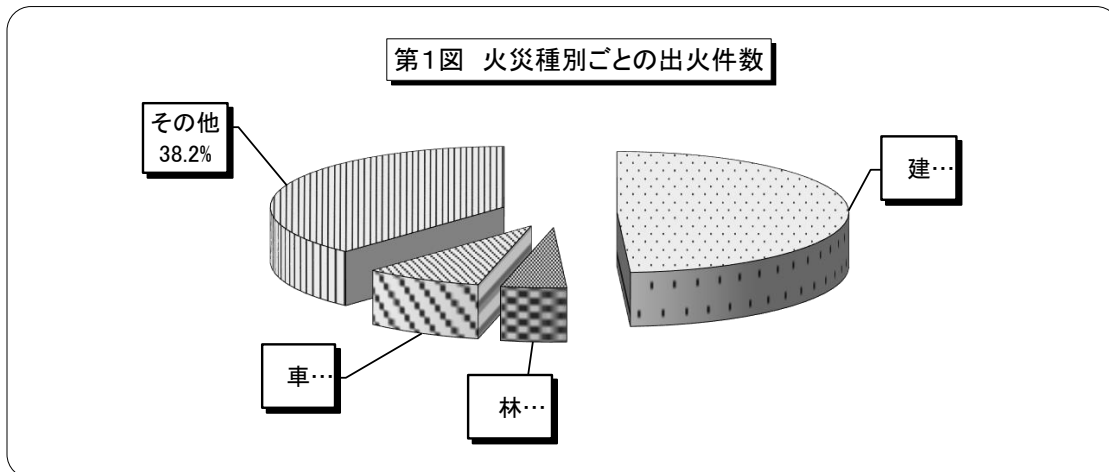
八街市は37件で、全体の33.7%を占め、前年と比較すると13件(54.2%)の増加である。

酒々井町は14件で、全体の12.7%を占め、前年と比較すると9件(180.0%)の増加である。

火災種別ごとの出火件数を示したものが第1表及び第1図であり、構成市町別の出火件数を示したものが第2表及び第2図である。また、構成市町別の火災種別ごとの出火件数を示したものが、第2-1表～第2-3表及び第2-1図～第2-3図である。

第1表 火災種別ごとの出火件数

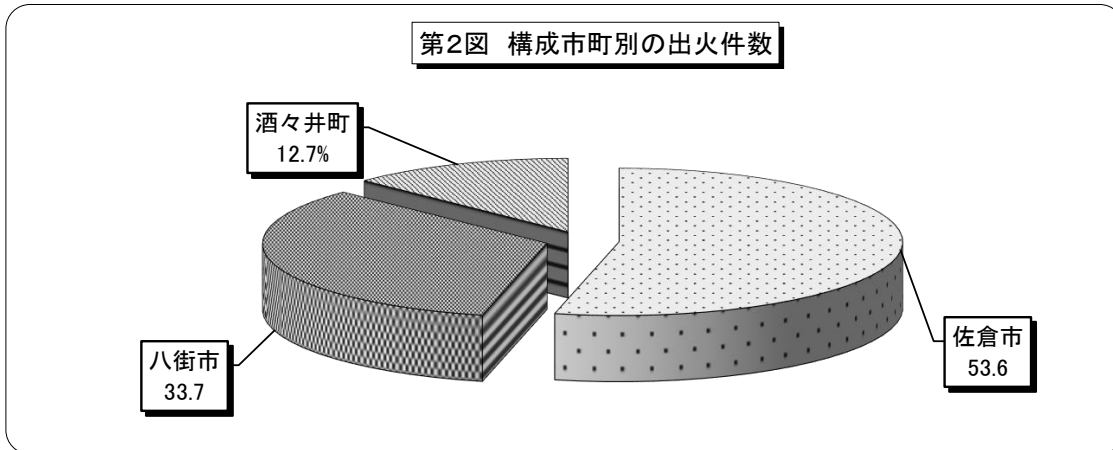
区 分		令和3年中(件)	令和2年中(件)	増 減(件)	増 減 率(%)	割 合(%)
出 火 件 数	建 物	54	42	12	28.6	49.1
	林 野	5	3	2	66.7	4.5
	車 両	9	9			8.2
	船 舶					
	航 空 機					
	そ の 他	42	31	11	35.5	38.2
	合 計	110	85	25	29.4	100



第2表 構成市町別の出火件数

市 町	令和3年中(件)	令和2年中(件)	増 減(件)	増 減 率(%)	割 合(%)	
出火件数	佐 倉 市	59	56	3	5.4	53.6
	八 街 市	37	24	13	54.2	33.7
	酒 々 井 町	14	5	9	180.0	12.7
	合 計	110	85	25	29.4	100

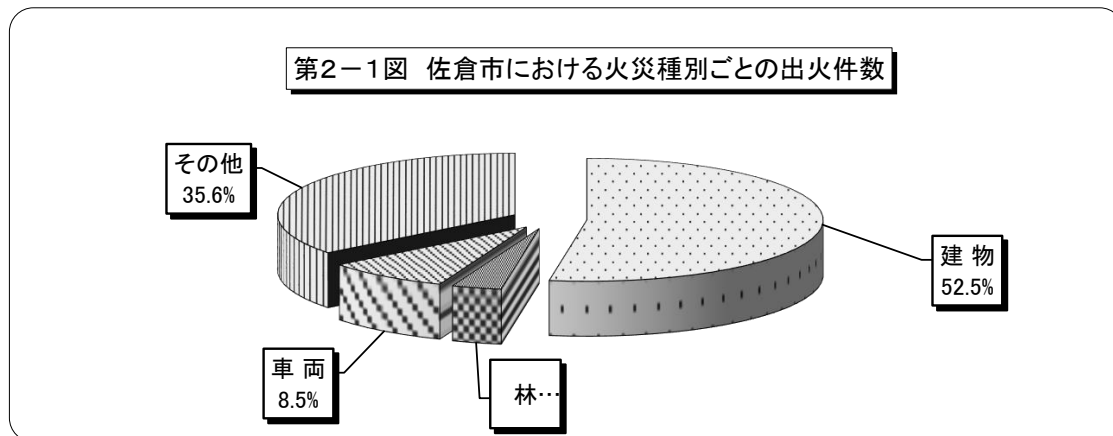
△は減少を表す。



第2-1表 佐倉市における火災種別ごとの出火件数

区 分	令和3年中(件)	令和2年中(件)	増 減(件)	増 減 率(%)	割 合(%)	
出火件数	建 物	31	33	△ 2	△ 6.1	52.5
	林 野	2	2			3.4
	車 両	5	4	1	25.0	8.5
	そ の 他	21	17	4	23.5	35.6
	合 計	59	56	3	5.4	100

△は減少を表す。

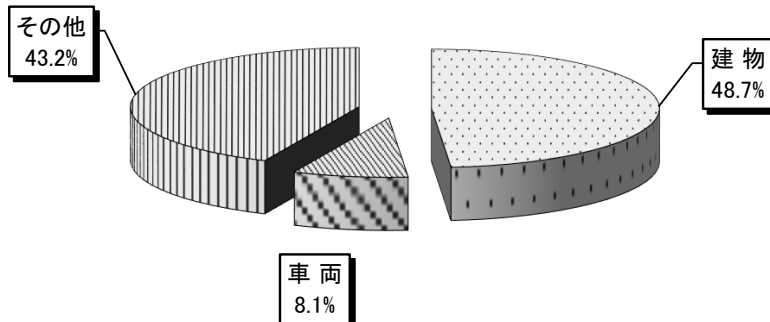


第2-2表 八街市における火災種別ごとの出火件数

区分	令和3年中(件)	令和2年中(件)	増減(件)	増減率(%)	割合(%)	
出火件数	建物	18	8	10	125.0	48.7
	林野		1	△1		
	車両	3	2	1	50.0	8.1
	その他	16	13	3	23.1	43.2
	合計	37	24	13	54.2	100

△は減少を表す。

第2-2図 八街市における火災種別ごとの出火件数

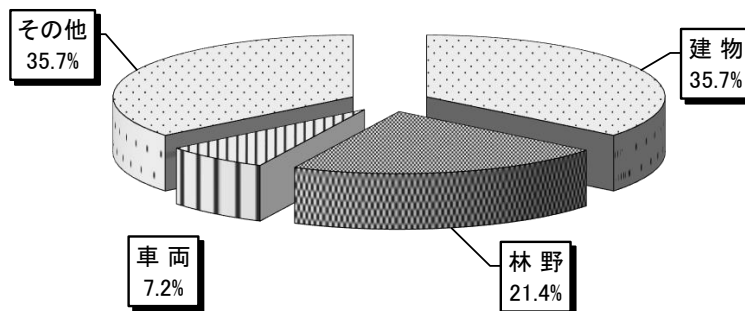


第2-3表 酒々井町における火災種別ごとの出火件数

区分	令和3年中(件)	令和2年中(件)	増減(件)	増減率(%)	割合(%)	
出火件数	建物	5	1	4	400.0	35.7
	林野	3		3		21.4
	車両	1	3	△2	△66.7	7.2
	その他	5	1	4	400.0	35.7
	合計	14	5	9	180.0	100

△は減少を表す。

第2-3図 酒々井町における火災種別ごとの出火件数



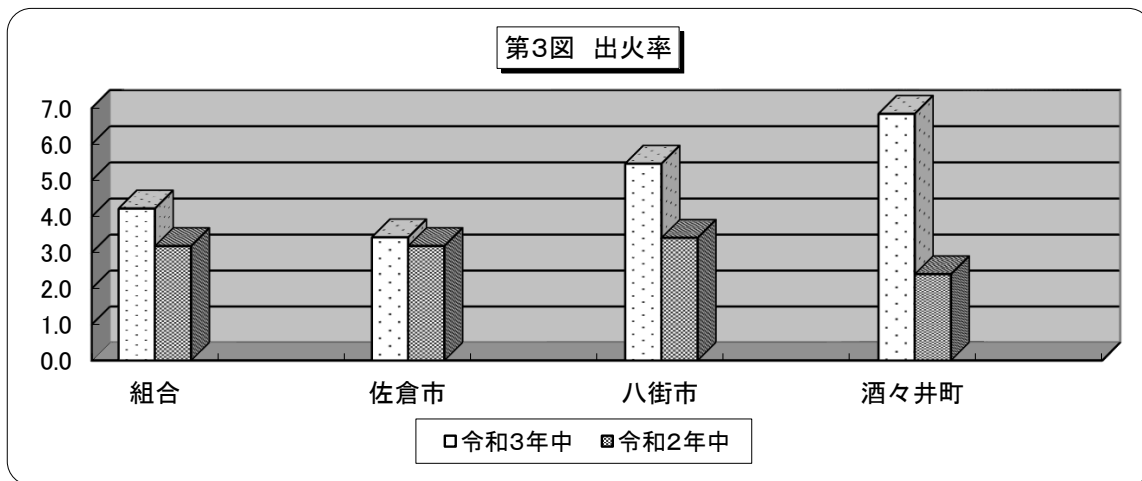
## 2 出火率

出火率（人口1万人当りの出火件数）は4.2件である。構成市町別にみると、佐倉市が3.4件、八街市が5.5件、酒々井町が6.8件である。

出火率を示したものが第3表及び第3図である。

第3表 出火率

区 分		組 合	佐 倉 市	八 街 市	酒 々 井 町
令和3年中	人 口(人)	260,431	172,232	67,739	20,460
	件 数(件)	110	59	37	14
	出火率(件)	4.2	3.4	5.5	6.8
令和2年中	人 口(人)	267,006	175,833	70,343	20,830
	件 数(件)	85	56	24	5
	出火率(件)	3.2	3.2	3.4	2.4



## 3 焼損棟数及び焼損面積等

焼損棟数は86棟で、前年と比較して15棟（21.1%）の増加となっており、焼損程度別で見ると、全焼は18棟で前年と比較して3棟の減少、半焼は2棟で2棟の減少、部分焼は25棟で10棟の増加、ぼやは41棟で10棟の増加である。

建物焼損床面積は2,290㎡で、建物焼損表面積は417㎡である。前年と比較して建物焼損床面積は1,387㎡（153.6%）増加し、建物焼損表面積は318㎡（321.2%）の増加である。

焼損棟数を示したものが第4表及び第4図であり、焼損面積を示したものが第5表である。

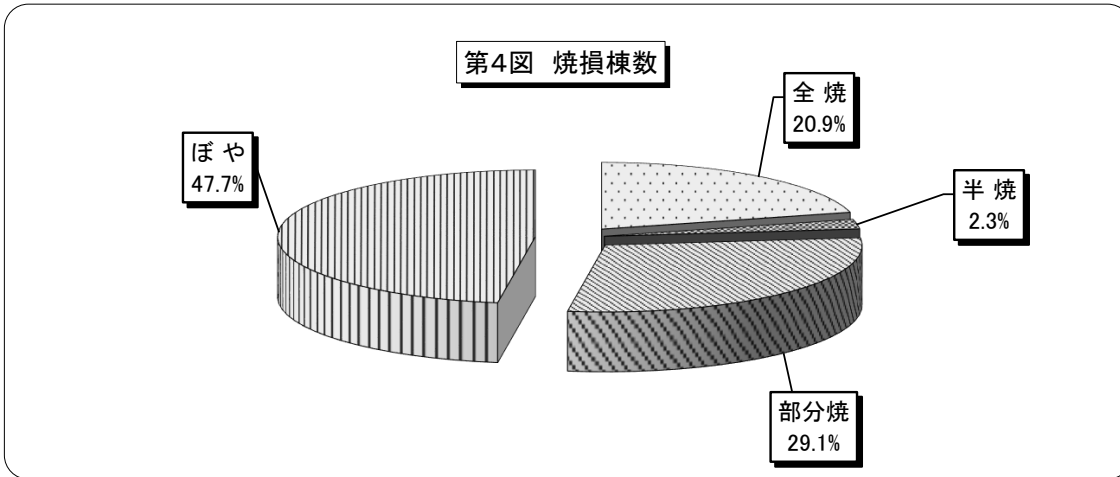
第4表 焼損棟数

区 分		令和3年中(棟)	令和2年中(棟)	増 減(棟)	増 減 率(%)	割 合(%)
焼 損 棟 数	全 焼	18	21	△ 3	△ 14.3	20.9
	半 焼	2	4	△ 2	△ 50.0	2.3
	部 分 焼	25	15	10	66.7	29.1
	ぼ や	41	31	10	32.3	47.7
	合 計	86	71	15	21.1	100

△は減少を表す。

第5表 焼損面積

区 分		令和3年中(m <sup>2</sup> )	令和2年中(m <sup>2</sup> )	増 減(m <sup>2</sup> )	増 減 率(%)
焼損面積	床面積	2,290	903	1,387	153.6
	表面積	417	99	318	321.2



#### 4 損害額

損害額は176,854千円であり、前年の80,582千円と比較して96,272千円(119.5%)の増加である。建物火災1件当りの損害額は3,002千円であり、前年と比較して1,374千円(84.4%)の増加である。

損害額を示したものが第6表であり、構成市町別の損害額を示したものが第6-1表～第6-3表である。

第6表 損害額

区 分	令和3年中(千円)	令和2年中(千円)	増 減(千円)	増減率(%)	割 合(%)
建 物	162,087	68,368	93,719	137.1	91.7
林 野					
車 両	9,611	9,327	284	3.0	5.4
そ の 他	5,156	2,887	2,269	78.6	2.9
合 計	176,854	80,582	96,272	119.5	100

第6-1表 佐倉市における損害額

区 分	令和3年中(千円)	令和2年中(千円)	増 減(千円)	増減率(%)	割 合(%)
建 物	28,294	45,931	△ 17,637	△ 38.4	92.0
林 野					
車 両	2,274	2,832	△ 558	△ 19.7	7.4
そ の 他	171	1,926	△ 1,755	△ 91.1	0.6
合 計	30,739	50,689	△ 19,950	△ 39.4	100

△は減少を表す。

第6-2表 八街市における損害額

区 分	令和3年中(千円)	令和2年中(千円)	増 減(千円)	増減率(%)	割 合(%)
建 物	122,407	19,476	102,931	528.5	90.9
林 野					
車 両	7,337	2,708	4,629	170.9	5.4
そ の 他	4,972	258	4,714	1827.1	3.7
合 計	134,716	22,442	112,274	500.3	100

第6-3表 酒々井町における損害額

区 分	令和3年中(千円)	令和2年中(千円)	増 減(千円)	増減率(%)	割 合(%)
建 物	11,386	2,961	8,425	284.5	99.9
林 野					
車 両		3,787	△ 3,787		
そ の 他	13	703	△ 690	△ 98.2	0.1
合 計	11,399	7,451	3,948	53.0	100

△は減少を表す。

## 5 死傷者数

火災による死者は1人で、前年と比較して1人の減少である。構成市町別では、八街市が1人であり、発生経過については、逃げ遅れ1人である。火災による負傷者は22人であり、前年と比較して6人の増加である。構成市町別では、佐倉市が11人、八街市が10人、酒々井町が1人であり、原因別では、避難中3人、消火中14人、作業中1人、就寝中1人、その他3人となっている。

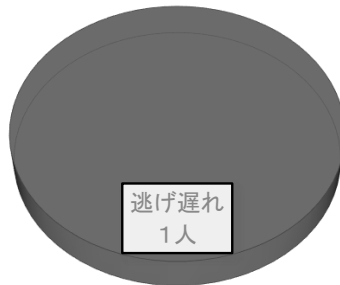
死傷者を示したものが第7表及び第5図並びに第6図である。

第7表 死傷者

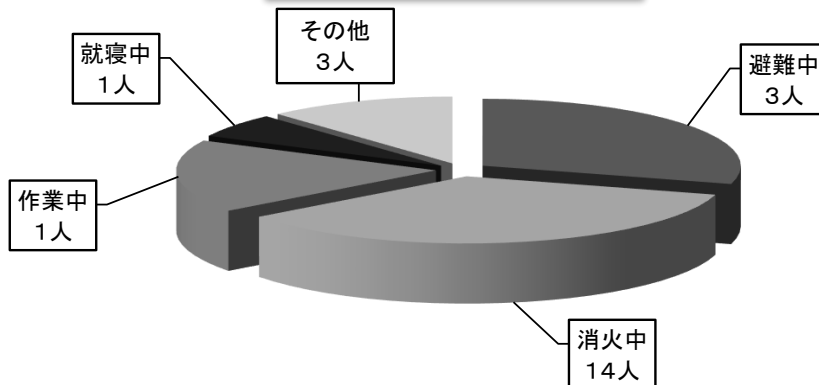
区	分	令和3年中(人)	令和2年中(人)	増減(人)	増減率(%)
組 合	死 者	1	2	△ 1	△ 50.0
	30日死者		1	△ 1	
	負 傷 者	22	16	6	37.5
佐 倉 市	死 者		1	△ 1	
	30日死者		1	△ 1	
	負 傷 者	11	12	△ 1	△ 8.3
八 街 市	死 者	1	1		
	30日死者				
	負 傷 者	10	3	7	233.3
酒々井町	死 者				
	30日死者				
	負 傷 者	1	1		

△は減少を表す。

第5図 死者原因



第6図 負傷者原因



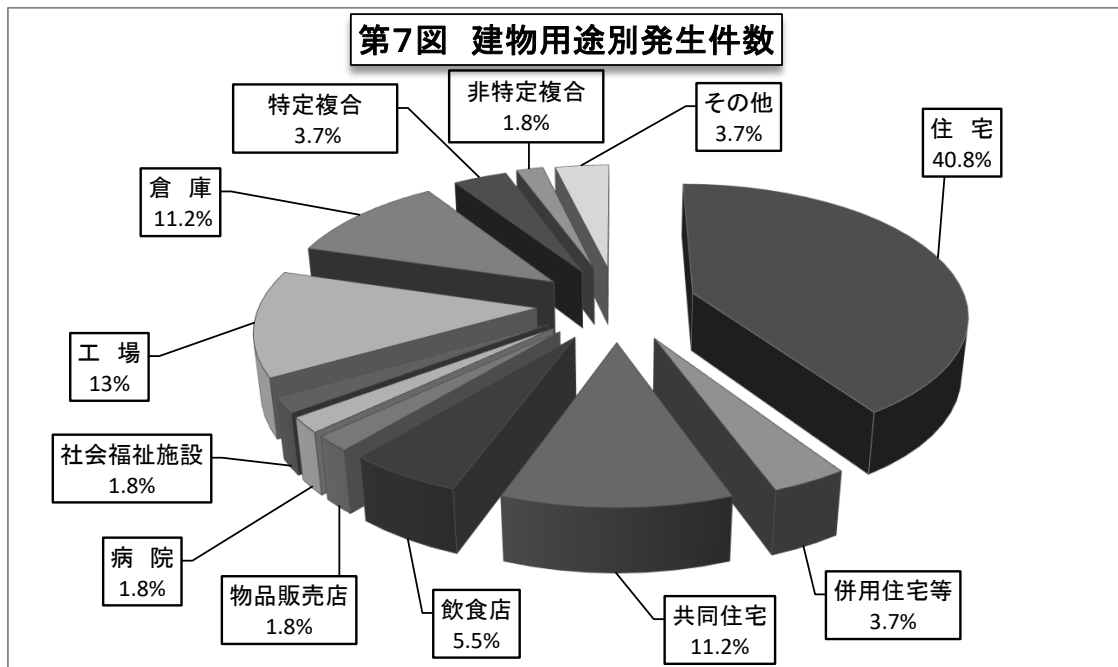
## 6 建物用途別発生状況

建物火災54件を用途別にみると、住宅が22件（全体の40.8％）で最も多く、次いで工場が7件（同13.0％）、共同住宅等、倉庫が各6件（同各11.2％）、飲食店が3件（同5.5％）、併用住宅、特定複合が各2件（同各3.7％）、物品販売店、病院、社会福祉施設、非特定複合がそれぞれ各1件（同各1.8％）、その他が2件（同3.7％）である。

建物用途別発生状況を示したものが、第8表及び第7図である。

第8表 建物用途別発生状況

用途	件数(件)	割合(%)
住宅	22	40.8
併用住宅	2	3.7
共同住宅等	6	11.2
飲食店	3	5.5
物品販売店	1	1.8
病院	1	1.8
社会福祉施設	1	1.8
工場	7	13.0
倉庫	6	11.2
特定複合	2	3.7
非特定複合	1	1.8
その他	2	3.7
合計	54	100





## 7 リ災世帯及びり災人員

り災世帯は51世帯であり、前年と比較すると10世帯(24.4%)の増加である。内訳は、全損11世帯、半損1世帯、小損39世帯となっている。り災人員は122人であり、前年と比較して32人(35.6%)の増加である。

り災世帯を示したものが第9表及び第8図であり、り災人員を示したものが第10表である。

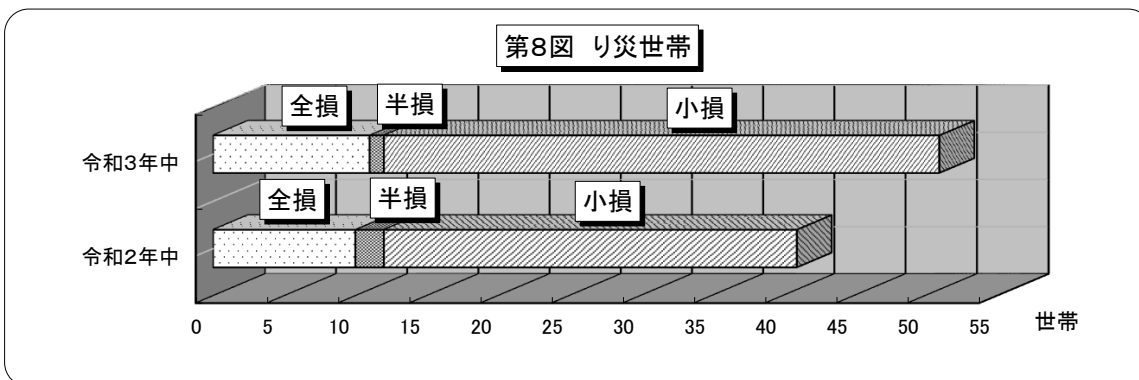
第9表 リ災世帯

区分	令和3年中(世帯)	令和2年中(世帯)	増減(世帯)	増減率(%)	割合(%)
全損	11	10	1	10.0	21.6
半損	1	2	△1	△50.0	2.0
小損	39	29	10	34.5	76.4
合計	51	41	10	24.4	100

△は減少を表す。

第10表 リ災人員

区分	令和3年中(人)	令和2年中(人)	増減(人)	増減率(%)
り災人員	122	90	32	35.6



## 8 出火原因

出火原因別でみると、放火(疑い含む。)が35件(全体の31.8%)で最も多く、次いでたき火が15件(同13.7%)、こんろが9件(同8.2%)、たばこが8件(同7.3%)、電灯・電話等の配線、配線器具がそれぞれ4件(同各3.7%)、火遊び、電気装置、溶接・溶断機がそれぞれ3件(同各2.7%)、ストーブ、火入れがそれぞれ2件(同各1.8%)、焼却炉、炉、電気機器がそれぞれ1件(同各0.9%)、その他が16件(同14.5%)、不明・調査中が3件(同2.7%)である。

建物火災についてみると、放火(疑い含む。)が10件(全体の18.6%)で最も多く、次いでこんろが9件(同16.7%)、配線器具が4件(同7.4%)、たき火、たばこ、溶接・溶断機がそれぞれ3件(同各5.6%)、電灯・電話等の配線、ストーブ、電気装置がそれぞれ2件(同各3.6%)、火遊び、炉、電気機器がそれぞれ1件(同各1.9%)、その他が11件(同20.4%)、不明・調査中が2件(同3.6%)である。

出火原因を示したものが第11表及び第9図である。

第11表 出火原因

原因別	建物 (件)	割合 (%)	林野 (件)	車両 (件)	その他 (件)	全火災 (件)	割合 (%)
放火(疑い含む)	10	18.6	3	2	20	35	31.8
こんろ	9	16.7				9	8.2
たき火	3	5.6	1		11	15	13.7
たばこ	3	5.6		1	4	8	7.3
マッチ・ライター							
電灯・電話等の配線	2	3.6		1	1	4	3.7
配線器具	4	7.4				4	3.7
ストーブ	2	3.6				2	1.8
火遊び	1	1.9			2	3	2.7
風呂かまど							
焼却炉					1	1	0.9
炉	1	1.9				1	0.9
かまど							
こたつ							
ボイラー							
煙突・煙道							
排気管							
電気機器	1	1.9				1	0.9
電気装置	2	3.6		1		3	2.7
溶接・溶断機	3	5.6				3	2.7
内燃機関							
灯火							
衝突の火花							
取灰							
火入れ			1		1	2	1.8
その他	11	20.4		3	2	16	14.5
不明・調査中	2	3.6		1		3	2.7
合計	54	100	5	9	42	110	100

第9図 出火原因

